

令和5年度 自己評価書（教職員編）

しらゆりこども園

1 「保育の計画性」についての検証結果及び改善策

自己評価については、個人差もあるが設置者との意識のずれが感じられた。勤務がシフト制のため、全体会議では全体の統一と設置者との連携をとることに重点を置く。細かな伝達などは、主任会議を通し主任を中心として学年単位で進める。

2 「保育の在り方、幼児への対応」についての検証結果及び改善策

特に問題点はないが、遊びの援助者として適切な援助や見守りができるよう研究する必要がある。できる限り多くの園内公開保育等を行い、保育の見直しをしていきたい。

3 「教師としての資質や能力・良識・適正」についての検証結果及び改善策

組織の一員としての在り方とは何か、という意識が年々低下している傾向があり、あまり教養を高める努力をしていないことが察せられる。今後は自己研究に努め、保育に関する新しい情報等を確保し、保育以外のことにも関心を持ち保育教諭として一般的な教養をかなり高める必要がある。

4 「保護者への対応」についての検証結果及び改善策

大変努力をしている。今年度は、Instagram や園内掲示を利用し、日常のクラスや子どもの様子等、情報の発信を行うことができた。来年度も写真やイラストなどを使い、さらに分かりやすく伝える工夫をしていきたい。

5 「地域の自然や社会とのかかわり」についての検証結果及び改善策

地域の自然や外の関わりを深めるには非常に良い環境に恵まれているが、近年それをうまく利用することが少なくなってきた。必要性和関心が薄れたことに起因している。今後はこども園の自然環境の良さを生かした保育が展開できるよう、教職員で話し合いを持ち計画を立てていきたい。時間的に難しいようであれば、工夫して計画する必要がある。

6 「研修と研究」についての検証結果及び改善策

これまで、「保育教諭としての専門性に関する研修研究」への意欲が不足している教職員もあるが、園内研修と通して話し合い、さらに研究を深めていきたい。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策

外部からみると教職員及び園に対する評価が高く、少し実際とのギャップを感じている。保護者からの信頼も厚いが、それに応えるべく自信をもって自分たちの保育を見てもらえるように自己研鑽を積んで資質の向上に努力する必要がある。

